

釧新郷士芸術賞に輝く

山形県の旧家生まれ、恵まれた音楽環境のもとで幼時を過ごした。親せきに芸大出が三人おり、叔母がピアノを弾き、女学生の姉

受賞者の横顔

星 寿次さん

(音楽)

三人が歌曲をうたい、フルートを吹く家庭。冠婚葬祭で親せきが集まると、子供たちは十歳のなかでハーモニカ、アコーディオンなどそこらにある楽器で合奏を楽しむといったあんばい。だから小学校三年のとき、音楽の不得手な担任の先生に代わって級友にうたを教えた星さんがいまでも大事に使っているバイオリンは、母方の祖父が



未完成でも楽しい創作曲を…と星さん

< 2 >

弦の強化に情熱注ぐ

医学を下イッで学んだときに買ひ求めて来たものだという。高校時代から音楽教師になるこ

とを志し、山形大教育学部特設音楽科に進んだ。この時演奏旅行で来道、北海道の上さを知った。オ内から四つの学校から誘いがあ

「北陽の四季」などを作曲したほり、長女(小六)はバレエ、バイオリン、長男(六歳)もバイオリンを学ぶ音楽一家だ。三十九歳。

『楽しいものを』 創作曲でも活躍

だが、当時の沖口三郎校長の人柄にひかれて釧路北陽高校を選んだ。以来現在まで同校の音楽担当。その間、作詞の巧みな沖口校長とコンビで校歌、園歌九曲、合唱組曲「釧路風物詩」合唱曲「海」

他の芸術分野は創作活動が主なのに、音楽は与えられた曲のなかで演奏することがほとんど。「絵でいえば模写みたいなことばかりだ。たとえば模写みたいなことばかりだ。たとえば模写みたいなことばかりだ。たとえば模写みたいなことばかりだ。

「楽しいものを」といふのが持論。「クラシック」はよほどの大家の演奏でないと退屈です。たといえ未完成でも、いなあ、楽しいなあ…という音楽が、いろんな人から、いろんな形でたくさん出て来ているはず。でも釧路で出来た創作曲は数えるほどしかない」と嘆く。



いま釧路の音楽界にいちばんほしいのは包容力と力のあるよいリーダーであり、またオーケストラを演奏するといっても釧路の音楽現況はピアノと管に片寄り過ぎ、弦の演奏者は非常に数少ない。弦の強化のため、一切を捨ててこれに集中してみたい…という情熱も燃やしている。

道子夫人は管の助教免許を取り、長女(小六)はバレエ、バイオリン、長男(六歳)もバイオリンを学ぶ音楽一家だ。三十九歳。